

リハビリテーション治療学特講

[講義] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》○澤田篤史 (as-51@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

内部機能系は主にエネルギー代謝を通して生体機能の恒常性の維持に極めて重要な役割を有している。主たる障害あるいは合併症としての内部障害に対する日常臨床における評価および治療の過程において、受講生の臨床課題に立脚し、国内外の文献調査を行いながら背景にある具体的問題を介入可能な課題に整理しつつ科学的根拠に基づく効果的アプローチに関して検討していく。これらを通して科学的根拠に基づく臨床的視点を学修し、さらにはチームとしての、あるいは予防医学を視野に入れた地域を含めた包括ケアとしてのシステム構築に関する考察を行う。

【学修目標】

一般目標：

1. 国内外の最新の知見を確認することができる
2. 臨床課題に立脚した具体的問題を介入可能な課題に整理し、有効で効果的なアプローチを探索することができる

行動目標：

1. 病態生理に基づいて内部障害の臨床解釈についてプレゼンテーションできる
2. 臨床課題について文献調査による科学的根拠に基づいた介入方法を考案できる
3. 内部障害の臨床解釈に対する地域包括ケアシステム構築について一定の見解を持つ

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	病態生理に基づく呼吸不全および心不全の臨床解釈に関するプレゼンテーションの行い方について説明する。	澤田篤史
2~5	臨床課題についての病態解釈	臨床課題の病態解釈について、文献調査とプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。	澤田篤史
6~10	臨床課題についての介入方法の考案	臨床課題の病態解釈と介入方法について文献調査とプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。	澤田篤史
11~15	臨床課題のその後の展開のためのシステム構築に向けた討議	臨床課題の病態解釈と介入方法について文献調査とプレゼンテーションに基づいて、評価および治療プログラムの普遍化に向けたディスカッションを行う。	澤田篤史

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題およびプレゼンテーション（50%）、討議状況（50%）で総合評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

講義の中で適宜紹介していく。

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること。（各講義につき160分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーション科学に関する高度な学識と研究能力を修得し、リハビリテーション科学の発展を通して社会に貢献できるというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）

(2026年度・大学院 リハビリテーション科学研究科)

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士としての病院や研究施設における実務経験をもとに講義を行う。